



Special Features / Engineering's Heritage III Beyond the Years of our Life China

悠久のリゾート「西湖」

中国・浙江省杭州

特集
土木遺産III
悠久の時を超えて 中国



セントラルコンサルタント株式会社 技術本部/情報管理室
浅野泰弘
ASANO Yasuhiro

1—憧れの西湖

中国の杭州には不思議な湖がある。南北3.3km、東西2.8km、外周は約15km、面積は5.66km²、容積は877万m³のどこにでもありそうな湖、しかしこの湖のことは中国人なら誰でも知っている。ただ知っているのではなく、何百年の間、一生に一度は見てみたい風景として憧れてきた湖なのである。

西湖からは、三方を囲む山々と、湖の東側に位置する杭州の市街地が望める。近景には湖面と街路樹、そして遠景に見える山々と近代的な市街地。私が訪れた9月はこれに加えて、金木犀、銀木犀の甘い香りが迎えてくれた。そう、中国人にとってここはリゾート地であり、湖もそれを演出する公園や風景も香りも美しい。

しかしそれでも、西湖がここまで有名な理由として私を納得させてくれるには、まだ不足している様に感じられた。湖畔の自然は元来美しい物であり、他にもこのような湖はいくらでもあるはずである。では、なぜ西湖だけがここまで有名になり、今も一大観光地となっている

のであろうか。

西湖は自然に出来た湖であるが、地図を見れば一目瞭然、自然ではない不思議な人工物に気が付く。湖の西側を南北にまたぐ堤、そして北側を東西にまたぐ堤。これらはもちろん人工物であり、南北にまたぐ堤は蘇堤、東西にまたぐ堤は白堤という。この二つの堤は、きれいな道として整備されているが、蘇堤は1090年頃、白堤は825年頃に築造された古い構造物である。

一体なぜ、このような構造物が作られたのであろうか、そしてそれは西湖が特別であることと関係があるのだろうか。

2—治水と景観の一大事業

西湖の北側に位置し、西湖北側の断橋から孤山間約1kmの土堤は白堤である。孤山側には錦帯橋が架かっている。幅は10m程、2車線のアスファルト舗装がされているが、歩行者と自転車そしてカートしか見かけない。車は通らないか必要最低限の車両のみなのであろう。



■図1—西湖MAP、三方を山に囲まれ東側が市街地に面している

道の両側には柳と桃の木がきれいに並んでいて、その外側には植え込みがあり、湖に向かってベンチも設置されている。白堤の印象は、さすががしく明るい湖畔の道。

もちろん舗装や植え込みなどは解放後に設置された物であるが堤体そのものは当時と変わらない。架かっている断橋と錦帯橋の2つの橋は、平たい石橋で中央部にはアーチ形の孔があいている。

この堤を築いたのは、白居易(日本では白楽天として知られている)という詩人である。白居易は詩人としても有名だが、西湖に白堤を築いたことでも有名である。白居易は自ら望んで杭州に赴任し、822年に杭州刺史に任命された。白居易は杭州で、銭塘湖(今の西湖)に目をつけ、治水・干拓事業を行った。堤によって、湖を二つに分け、併せて堤防に水門を作り水位調整が行えるようになっていたといわれている。白堤は、実用の為に築



■写真2—白堤に架かる錦帯橋、対岸は孤山



■写真1—白堤の道、両側には柳と桃の木の街路樹

かれた堤であったが、これは西湖の美化に繋がり、西湖が景勝地として知られる最初のきっかけとなった。この堤は白居易を記念して「白堤」と呼ばれるようになり、現代に至るまで西湖名勝のひとつとして親しまれている。白居易は、3年ほどで再び中央に召還され杭州を離れたが、杭州への思いは強く「江南の憶ひ 最も憶ふは 是れ 杭州(江南を思う時、もっとも思うのは杭州である)」とその思いを後日、詩に残している。

白居易が西湖の景観を意識して白堤を築いたかどうかは定かではないが、彼が芸術家であったこと、そして西湖を愛していたことは確かである。

3—堆積との闘いの証人

西湖の西に位置し、南北に2.8kmの長さで、途中には6つの橋が架かっている堤、蘇堤。幅はやはり10m程であるが、舗装は1車線であり、こちらは車が通る感じはしない。道の両側には、金木犀、銀木犀の並木が2重にあり、木漏れ日が心地よい。白堤と違って蘇堤は、静かで涼しい散歩道の印象がある。6つの橋はアーチ型の石橋である。



■写真3—白堤から望む蓮の葉、蓮により堆積が進むとして禁止された時代もあった



■写真4—木漏れ日が心地よい蘇堤の道、のんびりくつろぐ人、散策をする人、サイクリングをする人と思いに過ぎず姿が見られる

日本の岩国には「錦帯橋」と言う名の橋がある。1673年に建設されたもので、名前の由来は、西湖の錦帯橋といわれているが、その姿は錦帯橋とは全く異なり、木製の連続アーチ橋である。実は日本の錦帯橋は、西湖の蘇堤に連続して架かる6つの橋をヒントに作られた橋なのである。遠く日本にも西湖の美しさが伝えられていたことが良く分かるが、ヒントとなった蘇堤ではなく白堤に架かる錦帯橋の名前が付けられたというのは不思議な話である。

錦帯橋のモデルともなった蘇堤は、やはり詩人、書家として有名な蘇東坡が築いたものである。1089年に蘇東坡が知事として2度目に杭州に赴任した時、西湖は堆積により湖面の半分がすでに泥でふさがっていた。もともと西湖は南を流れる銭塘江の湾曲部分に、徐々に上流から流れ込む土砂、満潮の際に逆流する海水が運ん



■写真5—蘇堤に架かる橋、短いアーチの石橋が堤を繋いでいる



■写真6—船による西湖遊覧は代表的な観光で、そのすばらしさはマルコポーロも伝えている

でくる砂が堆積することにより、やがて湖となったものである。そのままにしておけば堆積により水深は徐々に浅くなり、やがて陸地となってしまう。西湖の水は、多くの人々を魅了してきただけでなく、農業用水として、生活用水として杭州にとって非常に重要なものであり、西湖の堆積は重大な問題であった。

蘇東坡は20万人の人を集め、西湖の泥をさらい、その土を盛って蘇堤を築いたのである。これにより西湖は蘇り、この堤は蘇堤と呼ばれるようになったという。

蘇東坡は西湖の美しさを、「西湖をもって西子に比せんと欲すれば、淡粧 濃抹 総て相宜し」と表現し、西湖の美しさを絶世の美女とうたわれた西施に例え、薄化粧も厚化粧もすべてすばらしいと歌っている。

4—人と言葉と歴史の湖

西湖には昔から継続的に人の手が加えられてきた。白堤、蘇堤はもちろんのこと、三潭印月も湖底の泥をさらって作られた人口島である。西湖の自然は美しい、しかしこの湖がここまで有名になった理由は、自然と人の融合にあるのではないだろうか。それは単にこの湖に人口物を多数築いたということではない。地元の人は誇らしげに、「西湖と同じような湖はいくらでもある。西湖を有名にしたのは、杭州の人なのだ」という。

歴史上、杭州は有名な軍人も商売人もほとんど輩出していない。しかし、詩人を始め数多くの芸術家を輩出している。そもそもこの湖を有名にしたのは、白居易、蘇東坡をはじめ数多くの詩人が西湖の美しさを詩に称えた

からであろう。他に情報を伝える手段が無かった当時、詩は最も効果的なコマーシャルであった。西湖は古くからたくさん詩人が言葉の限りを尽くしてその美しさを称えてきた。人々はその言葉を伝え聞き、西湖の美しさに思いを馳せたのであり、西湖を目の前にした時に、それらの言葉が浮かばずには居られないであろう。西湖は景色を楽しむと同時にイメージを楽しむ場所でもある。

西湖について、特筆すべきはその景色そのものではなく、その景色に関わった人々であり、歴史であり、その景色を称えた人々の言葉なのである。

5—悠久の西湖

西湖では、現在も新たなプロジェクトが行われている。2003年に杭州市は、平均水深1.8mしかなく、近年の富栄養化による水質悪化も懸念される西湖の再生を掲げ「西湖西進」プロジェクトをスタートさせ、西側に約70ha



■写真7—新しく作られた西側のピオトープ地区



■写真8—白堤の金木犀、銀木犀、左のオレンジ色が金木犀、右の薄い黄色が銀木犀



■写真9—西湖の畔の湖畔でくつろぐ人々

の巨大ピオトープを整備し、西湖を6.1km²に拡張した。

西湖は元来、美しい湖であったが、それをここまで輝かせたのは杭州の人々の西湖への思いであり、放っておけば埋まってしまう湖を千年以上に渡り整備し、今なお続ける西湖への愛情に他ならないであろう。

杭州は竜井茶と言う銘茶の産地でもある。中国でのお茶の飲み方は日本と少し異なり、透明なグラスにお茶の葉を入れ、そこにお湯を注ぐ。グラスが透明であるのは、お湯の中のお茶の葉の広がりを楽しむためである。天気が良いと、杭州の人は西湖の畔でお茶を飲む。西湖の景色、金木犀、銀木犀の香り、そしてお茶、そこには今日もゆっくりとした時間が流れていた。

<参考文献>
 1) 中沢 章「中国・杭州 環境事情レポート」2003年10月
 2) 西湖パンフレット
 (写真提供：P26上、3、4、5、米岡 威 7、9、阪口直人 1、2、6、8、筆者)